

## 苦土川 井戸沢・峠沢下降

日程:2010年10月23日(土)

メンバー:L 白土、鋤持(記)

紅葉がいいのではないかと、那須の井戸沢へ出かける。初級なのでトレーニングに良さそう。

深山湖の奥、林道のゲート前に車を止め、そこからしばらく林道歩きとなる。天気は晴れ。木々の間から垣間見える山々は赤く染められ、青空のもと紅葉も楽しめそうだ。

三斗小屋宿跡と呼ばれる広場を通過し、三斗小屋温泉方面へ続く登山道から左にそれると、大きな堰堤が登場。ここを左から越える。トラロープが垂れ下がっているのを頼りに下りて、井戸沢入渓。

少し歩くと15m滝。水量は少ない。右の岩を補助ロープで登る。



【15m滝。右から】

その後はきれいなナメが続き、4~5mの小滝が程良く登場する。どれも登りやすい。

続いて、2つめの15滝。ビレイしていると、ロープの残りが厳しそう。40mロープがどんどん伸びていく。「あと〇~！」と声を出すけれど、どうやら水の音で声が届かないよう。もう足りないのでは、滝の水流正面まで数m歩いてみた。“これでも足りない場合は登るしかないのかな”と思っているうちにやっとロープが止まった。今度は、白土さんの合図が全く聞こえない。仕方ないので経過した時間やロープの感じから、「どうぞ」なんだろうと登り始める。よく、沢では聞こえないというけど、ほんとに聞こえないんだなと実感。ピッチを切らずに滝を二つまとめて登ったので40mロープがぎりぎり。なるほど、こういうこともあるのだな。山に行けば何かしらいつも収穫があって、今回もそう。



【15m滝】

8m滝。簡単そうとあって、「リードしてみる？」と聞かれる。今までリードはしたことがないけど、やってみようとは思っていた。左の壁なら落ちないし支点も取れそうなの

で左から。カムを3本借りてトライ。1本目は石にスリングを巻いて支点とする。2本目はカムを使用。自分が出したカムではサイズが合わなかったりで、もたつく。簡単などころだったから怖くはないけど、上からビレイされていないのはやっぱり緊張感が違う。



【鈎持 初リード！】

無事に落ち口にたどり着いたものの、その後が自信ない。辺りを見回しながら、ロープワークどうするんだったかなと思います。ビレイしてみたものの、流動分散になっていなかったの、あとでしっかり指導してもらおう。覚えるものではないので、やっぱり回数を重ねていこうと思う。

相変わらず日差しが暖かく、水は思っていたより冷たくない。風もあまりないので快適な遡行ができる。



二俣を過ぎたあたりから、水量はだいぶ減り、涸沢登りとなる。そのうちに笹が現れ、少しだけ踏み跡をたどって稜線に出た。

登山道を大峠から三斗小屋温泉方面へ進み、峠沢から下降、下山とした。峠沢は滝が全く無く、歩いての下降。コケが美しい沢だ。ただ、全体的に石がヌメっていて、私はかなり滑って、登山道に出た時には、だいぶぐったりしてしまった。

今回の反省をしながら林道を歩いていると、猿の大群に遭遇した。木に登り、走り回り、50匹くらいいた。クマよりはいいけど、猿もこんなに大勢では迫力があつた。

下山後は、白土さんが調べてきたという雲海閣で汗を流した。鹿の湯から直接引き込んでいる温泉は酸性の硫黄泉、かけながし。古い建物だけど、良いお湯だった。

二人での沢は今回が初めて。今までは、ビレイするにも登るにも、誰かしらがそばにいてアドバイスをもらっていたけど、今回は一人で行なければいけない場面も多々あり、どうすればいいのかな、と思うことも何度かあつた。

もうじき沢のシーズンは終わるけど、なるべくたくさん覚え、経験したいなと思った。

6:00 林道終点

8:00 入渓

11:45 稜線

13:00 峠沢(下降)

14:45 登山道

16:30 林道終点

地形図：那須岳